

に検討する。

○ 教授と分担については、主となる教師 (T₁) と補助的役割をもつ (T₂) の役割分担を明確にする。

○ 学習集団の編成は、教材の特性および (T₁) と (T₂) の役割分担との関係を考慮して、適正な集団の編成となるように配慮する。

○ 教育機器の活用と資料提示の位置づけに留意する。

エ、学習指導案 (第 6 学年・理科)

(3) 考察と反省

ア、考察

○ 教師の特質・特性が教授過程の中で適切に位置づけられる。

○ 小集団による指導の徹底と学習の個別化に対する構えができた。

○ 資料の提示などがムダなくできた。

イ、反省

○ 指導上の留意点と役割分担に対してのくふうと関連をはかる必要がある。

○ 教材の特性に応じた教授過程を検討する必要がある。

(4) 今後の課題

本年度の実践から、次の事がらが明らかにされた。

ア、教材の特性と児童の能力に応じた多様な学習集団の編成を検討する必要がある。

<学習集団の類型>

○ 一斉指導——大集団——近接 2 学年

○ 分団指導——中集団——
— 学年毎
— 異学年混成の 2 集団

○ 個別指導——小集団——
— 異質グループ
— 等質グループ

イ、教材内容・単元の展開過程から、次の指導方式について吟味する必要がある。

○ 大集団——中集団——大集団

○ 大集団——中集団——小集団——大集団

○ 大集団——中集団——小集団——中集団——

大集団

○ 大集団——小集団——中集団——大集団

○ 大集団——小集団——大集団

ウ、複数教師の役割分担を明確にする必要がある。

○ 事前の話し合いを通して、児童のレデネス・予想される問題等をよくはあくする必要がある。

○ 主となる教師 (T₁) は、授業時において副となる教師 (T₂) に対し、指示・連絡等を適切にする必要がある。

○ 副となる教師 (T₂) は、児童の学習を確かめ主となる教師 (T₁) に対し、助言をしながら指導の援助を適切にする必要がある。

項目 単元	細目標	内 容	教 授 と 分 担		形 態	反 応 評 価	準 備
			T ₁	T ₂			
力 第 1 時	2つ以上の物の重さや力を比べるとき、その重さや力を数で表すことにより正しくはつきりすることに気づかせる	1. 「比べる」ということについての話し合い	1. 日常生活経験の想起による話し合いをさせる	○ 児童の発言メモ	中	%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上皿台ばかり ・ 資料図 ・ 握力計 ・ エキスパンダー
		2. 2つの物の重さを比べる	2. 重さ比べをさせる	○ 机間巡視	中小		
と		3. カくらべの方法の話し合い	3. 資料図によって話し合わせる	○ 資料提示	中	%	
		4. エキスパンダーによる力を数で表す方法を考える	4. 各グループで話し合わせ発表させる	○ 児童の発言メモ	小		
重	力と重さは、つるまきばねに対して同じしたたきをししていること、重さと力と同じ単位で表すことができることをわからせる	1. 力の大きさを数で表すことの方法についての話し合い	1. いろいろな競技を想起させ話し合わせる		中	%	<ul style="list-style-type: none"> ・ エキスパンダー ・ パケツ ・ 砂 ・ 丸い棒 ・ 上皿台ばかり
		2. エキスパンダーによる実験	2. 実験をさせる ○ 横に使用したときの力と重さの関係 ○ 縦に使用したときの力と重さの関係	○ 実験の補助とグループ指導	小		
さ	つるまきばねの伸びは加えた重さに正比例することを理解させる	3. 力の大きさについての話し合い	3. 力の大きさは、ものの重さと同じようにグラムやキログラムの単位で表わせることをまとめさせる		中	%	
		4. 1kg、2kg、5kgなどの手こたえ調べ	4. それぞれの手こたえを調べさせる	○ 実験の補助	小		
時		1. 加える力とつるまきばねの関係についての話し合い	(1) 予想させる。 ○ 加えた力とつるまきばねの伸びはどのようなか	○ 実験の準備	中	%	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンド ・ つるまきばね ・ 厚紙 ・ グラフ用紙
		(2) 実験の方法の考察	(2) 計画を立て装置を組み立て実験をさせる	○ 実験の補助とグループ指導	小		
加	え	た	力	の	び	の	関